

中国西南のミャオ族の伝統家屋に見る装飾
黔東南ミャオ族トン族自治州地域を対象として
Decorations in the traditional houses of the Hmong in southwest China
Southeast of Guizhou region is taken as the research object

○馬清奕¹, 小島陽子²

*Qingyi Ma¹, Yoko Kojima²

Abstract: This paper attempts to clarify unknown aspects of Hmong architectural decoration based on previous research. Record and preserve undeveloped traditional villages in the current era of ethnic tourism, and to contribute materials to subsequent research on ethnic minorities. In this study, after understanding the history, culture and philosophy of the Hmong people through literature investigation, the village was investigated, and the decorative objects and buildings were measured and recorded.

1. はじめに

黔東南ミャオ族トン族自治州地域は、貴州省の東南部に位置し、ミャオ族、トン族、プイ族、トゥチャ族、スイ族などの少数民族が人口の8割を構成する多民族混住地域である。「漢族は街に住み、プイ族は水辺に住み、ミャオ族は山に住む」ということわざがあり、異なる民族が独自の集落を構成している。

本研究は観光業と経済開発により、失われつつあるミャオの伝統村落を記録保存することを目的としている。



図1 黔東南ミャオ族トン族自治州の位

西南少数民族に関する研究は、主に中国と日本において見られる。干闥式建築の名称の変遷^[1]と形式の特徴^[2]、トン族とミャオ族民家の断面と平面の相違点^[3]、また仕口の分類が4種ある^[4]こと、建設工程の木材の伐採、上棟式^[5]と新築の祝いに関する習俗^[6]など明らかにされている。

これらの研究では棟の装飾や柱の彫刻は報告されているが、その意味や施工法など不明点が多い。ミャオ族は正式な文字を持たないが、歴史や信仰、アイデンティティは、布の刺繍や建築の装飾、歌、年長者からの口承などにより伝承されてきた。

時代が進み民族が融合するにつれて、建築に関する信仰や伝統の表現はますます少なくなるであろう。これらの伝統が完全に消えてしまう前に、装飾の意味を解き明かし、伝統を保存、記録することは重要である。

本稿では黔東南ミャオ族トン族自治州地域で行った伝統家屋の調査結果から特に装飾をとりあげ特徴を報告する。

2. 調査概要

調査対象の集落は「貴州苗族村落調査報告」¹⁾に掲示されている集落の基本情報を整理し、集落を抽出する。多くの集落は、近代になってさまざまな程度の水害と火災を受け、多くの古い家屋が破壊された。できるだけ古い家屋を記録したいと考え、火災のない6番脚車村と歴史が古い4番朗徳上寨を今回の調査対象とした。

2024年8月11日-15日の5日調査期間は、7つの村を調査し、6人の大工と1人の元出版社の編集者に装飾についてインタビューを行った。

3. 建築装飾

1) 家の前面道路に面する一番外に位置する縁側の手すりは図4、床を貫通し、下端に彫刻が施された部位を「垂花柱」と呼ぶ。伝統的な中国建築垂花柱は通常、入口の底下に吊り下げられる。少数民族建築の床下に位置する柱とは異なる。ミャオ族の垂花柱は、先端が四角いものと丸いものがある。朗徳上寨の陳さん(76)によると、図4の様式は「酒壇様」といい、「お酒が好きなミャオ族は毎日楽しくお酒を飲むことができるように」という意味を要する。



図2 垂花柱



図3 垂花柱



図5 垂花柱

1: 日大理工・学部・建築 2: 日大理工・教員・建築

2) 屋根の飾りは、集落によって異なる装飾を持つ、毛平村の呉さん(75)と小丹江の楊さん(40)によると、積み上げた瓦は山を表す、ミャオ族は山の神が世話をする民族という意味を要する。朗徳上寨の李さん(76)によると、中央の瓦は貨幣の意味があり、貨幣の両側には二匹の竜が施されている。



図6 屋根の装飾

3) 軒下の装飾については、これまで報告が見られない。毛平村の呉さんとうどん村の楊さんによると、その飾りはミャオ族の神々の蝶であり、屋根が壊れることなくこの家を守る意味を要する。



図7 軒下の装飾

4. 室内の装飾

ミャオ族の人々は、家に神聖な物を飾ることにより、幸運がもたらされると信じている。これらは、一般に身近な植物とミャオ族にとって神聖な動物である。脚車村の莫さんの家を例として、以下に室内の装飾についてを報告する。

写真①と⑤の室内装飾は、ドアの上下に置かれる。苗語でドアは「ディウ」と呼ばれ、ドアの装飾は「ダディウ」と呼ぶ。ドアの下のあるお椀は盾、上の枝は槍を表す。不吉なものを突き出すという意味を要する。これらの装飾には、悪い事がドアを通過して室内に入らないように願いが込められている。

写真②の装飾は「ヤゴウ」と呼ばれ、牛の顎で歯を有する。13年に一度行われる「鼓蔵節」という祭りの時につるされた。(ミャオ族は祝祭日に牛肉を食べる)

写真③の装飾は「がぎ」と呼ばれ、牛の角である。鼓蔵節の時は牛の角で酒を飲む。ミャオ族は祭りの時や客人が村に入るときは地元の酒を振る舞う習慣があり、村人はお酒を持って道で待ち構え、客はお酒を飲んでから村に入ることができる。③の角は以前の祭りの際に、振る舞い酒で使われたものである。現在は、衛生上の問題から、角は家族だけが使用するが、酒を飲むことで不吉なものを寄せ付けない器の象徴として、家の中に吊るしている。

写真④の装飾は、室内の入り口のドア上での装飾である。「乾坤」という道教で天地を表す漢字が施され、背面に牛の角がある。ミャオ族の呼び方や意味については、莫さんにもわからない。家を新築した時に、祖

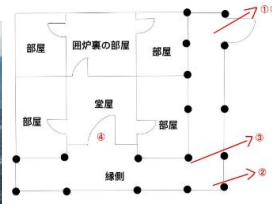


図5 莫さんの家装飾の位



①

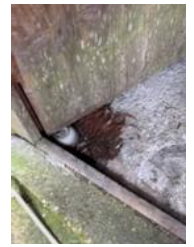
②



③



④



⑤

父がわざわざ漢字を書ける職人が頼んで彫ってもらったとのことだけが分かっている。他の村でもこの飾りは、よく見られるので、今後調査で明らかにしたい。

5. 考察と今後の課題

黔东南ミャオ族トン族自治州にて、ミャオ族の伝統家屋の調査を実施した。本稿では聞き取り調査から判明した建築装飾及び室内装飾について報告を行った。

ミャオ族の装飾は、自然に従った物が多い。同じ地域に住むトン族や漢族と違い、権利(王権、神権、家族)をあまり重視しないことが明らかになった。

今回調査を実施した集落では、事前の文献調査と異なり、多くの伝統家屋が取り壊されていた。また、調査で聞き取りをした村の若者は伝統的な事柄は詳しくない。文字を持たない少数民族の伝統を記録することは、喫緊の課題であることをより強く意識するようになった。

今後は、本調査の実測調査において、村単位で悉皆調査を行い、建物の基本構成とあわせて装飾を記録する。今回の経験を踏まえて、できるだけ多くの高齢者に聞き取り、その伝統を記録していきたい。

本調査の結果をもとに、装飾の模様について、ミャオ族の神話や刺繍の模様と比較し、その特徴について明らかにし、自然に従うといわれるミャオ族の民族性を読み取りたい。

参考文献と注:

- [1] 戴裔焯: 干蘭-西南中国原始住宅の研究, 岭南大学西南社会経済研究所, 1948
 - [2] 劉敦楨: 中国住宅概説, 百花文芸出版社, p. 70-72, 2004
 - [3] 貴州トン族住居調査委員, 貴州トン族の高床住居と集落構成に関する調査と研究(1)、住宅総合研究財団 研究年報 No.16, 1989
 - [4] 李先達: 干蘭式苗居建築, 中国建築工業出版社, 2005
 - [5] 李雪, 馬田乃生, 藤川昌樹, 安藤邦廣, 中国貴州省における少数民族の木造民家の建設に関する研究, 日本建築学会総会学術講演概要集, (2014)
 - [6] 李雪, 馬田乃生, 藤川昌樹, 安藤邦廣, 少数民族の穿閣式木造民家の建設工程と生産組織, 日本建築学会総会学術講演概要集, (2016)
- 1) 2008年から2015年にかけて、北京大学と中山大學をはじめとする民俗学フィールドワークから、2016年孫、王は貴州苗族村落調査レポートを出版した。調査レポート中、16の村を対象にして、風俗習慣、建物や服装、村の歴史などが詳しく記載された。